

## 山本山～賤ヶ岳縦走

大西清見（泉州労山）

<参加者>大西清見（CL、泉州労山）、徳野暢男（SL 吹田労山）、池本慎一（山の会二十渉）  
浅井省和・鶴川匠平（23期冬山ハイキングセミナー受講生）

<コースタイム>

2017年1月9日（月）曇り時々晴れ、のち雨

9：25JR河毛＝（タクシー）9：45山本山登山口～10：20山本山～11：00古利小学校への旧道～12：50湖北丸山～13：30/14：20賤ヶ岳～15：00大音ふれあいの森～JR木之本

23期冬山ハイキングセミナーを受講されている浅井さん、鶴川さんをお誘いし、吹田労山の徳野さんに同行をお願いして湖北・山本山～賤ヶ岳縦走に行ってきました。当初の予定は昨年の12月23日でしたが、雨天のため中止に、その代替として今年の1月9日に実施したのでした。交通手段はJR青春18キップを使用（一部タクシーも使用）、通常運賃の半額で格安の電車を使った5名の楽しい山旅となりました。

縦走は山本山～賤ヶ岳縦走路は約8キロ、西に琵琶湖、東には湖北の水田地帯を眺めながら歩くことのできるアップダウンの少ない優しいコースです。出発点の山本山（324m）は、JR北陸線や長浜市郊外から望むと秀麗な椀形を呈し田園の中でひと際目立つ小さな名山です。山頂の二の丸跡からは琵琶湖の眺望がすばらしく、賤ヶ岳への稜線には小保利古墳群があり古代の湖北にもちょっぴり触れることができます。ゴールの賤ヶ岳（421m）は行基の時代（奈良時代）から知られ、その後羽柴秀吉と柴田勝家による一大決戦が行われた、「賤ヶ岳の合戦」（1583年）で有名な山野です。

河毛駅からタクシーで山本山登山口へ、各自ストレッチをして山本山を登り始めました。天候は曇り時々晴れ、風はなくいきなりの急登なので汗が流れ落ちてきます。約30分で山本山の山頂に、この日は琵琶湖の眺めが素晴らしく、竹生島や今津方面もすっきりと見ることができましたが、赤坂山など比良山系には雪は全く在りませんでした。ここから進行方向にコンパスを合わせましたが、縦走路は単純な一本道なので、今回の読図は周辺の地形を読みながら現在地を確認していこう、とみんなで確認して歩くことにしました。小ピーク・コルや周辺の集落から現在地を知ることができます。また、琵琶湖の湖面（85m）からおよその標高も確認できます。縦走路の前半は小古利古墳群、ちょっとした小ピークが前方後円墳などがみられました。ゆるやかなアップダウンを繰り返して、左側に木々の間から琵琶湖、右手は高月の集落や水田地帯、彼方に伊吹山も見ることができました。ところどころのコルには東西の集落への旧道跡も歴史の流れを実感します。

登山口から約4時間半で賤ヶ岳の頂上へ（コースタイムは通常より1時間遅い）、山頂の東屋に着くや否やスコールのような風雨になってきました。しばらく東屋で昼食を兼ねて（本来、行動食で昼食の時間はないのですが）天候回復を待って待機することに。昼食は初めての試みでインスタントの鮎入り雑炊、鮎もちょっぴり入って好評でした。この想定外の、急に冷えてきた昼食時でラーメンやコーヒーで身体を温めることも大切です。周辺の景観は風雨とガスで一変、かすかに眼下に余呉湖が見えるほどでした。雨も小降りになったころ、東屋で記念写真を撮って下山することになりました。

下山のルートはJR余呉駅までを諦めて、賤ヶ岳直下のP349分岐より東方の尾根を下

って JR 木之本駅までショートカットすることにしました。ところがこの尾根はあまり利用されていなく、中間点辺りでは踏み跡もないほど荒れていました。ところどころルートファインディングも必要でしたが、若い鶴川さんは予想外のルートを楽しそうに下っていました。この楽しさも登山の醍醐味かもしれません。無事、東方の尾根を下り「大音ふれあいの森」の看板に出ることができました。ここからは以前、木之本に住んでおられた鶴川さん（途中に勤務されていたY企業の工場がありました）のリードで田園地帯、市街を歩いて木之本駅へ、木之本駅では1時間に1本の新快速電車待ちの間、地域情報に詳しい鶴川さんが乾杯用のビールを買い出しにいかれました。午後4時18分発の網干行きの新快速に乗車、約2時間ビールを飲みながら湖北縦走をみんなで振り返りました。初めて組んだ5名のパーティは、また次の山域を目指していこう、というほどの仲の良い雰囲気にもまで盛り上がったのでした。



P. 349 からの尾根下山路にて

尾根から山本山（左端）を振り返る

### 浅井省和

「湖北、山本山から賤ヶ岳縦走」というタイトルに惹かれ参加しました。こんなコースがあることも知らなかったし、こんな遠くまで一人で行くことはまずないだろうと思ったからです。奈良の「山の辺の道」にちなんでか、「湖の辺の道」（の湖北山岳コース）とある通り、琵琶湖を眺めるためにあるようなコースでした。湖だけでなく、尾根の反対側は人家も少ない田園風景が広がる湖北の美しい景色を堪能できました。最後は雨に降られましたが、ちょうど屋根のある賤ヶ岳の展望台に到着し、濡れることなく大西さん提供のアワビ粥をいただくことができ疲れも回復し、本当に最初から最後まで楽しむことができました。ありがとうございました。

### 池本慎一

1月7日冬山セミナーのオプションとして泉州労山の大西さんに山本山—賤ヶ岳縦走登山を企画していただきました。賤ヶ岳は豊臣秀吉と柴田勝家が争った賤ヶ岳の戦いで有名で、一度は行って見たかった山で私も一緒に参加させていただきました。大西さん、徳野さん、セミナー生2人の計5人で山行しました。JR河毛駅で降り山本山の登山口から登りはじめました。山本山324m、賤ヶ岳421mで山本山と賤ヶ岳には少し急登がありましたが、縦走路は穏やかな上り下りを繰り返し読図をしながら快適な山行となりました。稜線は右手に琵琶湖、竹生島が浮かび左手に湖北の平野を展望しながら歩けるコントラストが素晴らしい景色の連続で感激しました。また遠くには伊吹山を望みました。稜線上には「小保利古墳群」があり国指定の史跡になっています。3世紀から7世紀にかけて琵琶湖

の湖上交通を掌握していた豪族の墓と考えられており、132基の古墳数が判明しているそうです

午前中は天気が良く晴れていたのですが、昼から雨になり賤ヶ岳の山頂に着いた頃は雨が強くなり気温も下がってきました。大西さんが用意してくださった鮎入り雑炊を皆がごちそうになり体が温まり一息つきました。下山の頃には雨も弱まり、ショートカットで木ノ本に下山し、JR木ノ本駅より乗車し18時過ぎに大阪駅に帰ってきました。

## 鵜川匠平

泉州労山の太西さんにお誘いいただき、1/9(月・祝)に山本山から賤ヶ岳の山行に参加させていただきました。山行コースは時折勾配はあるものの全体的には緩やかなアップダウンのある10km弱の稜線で、稜線の左手に湖北の美しい琵琶湖を眺めることができ、終始飽きないコースでした。賤ヶ岳山頂手前付近から雨が降り始めたため、目的地の余呉駅から木之本駅へのルート変更を行ったり、コースの一番の賤ヶ岳からの眺望を見れなかったため、改めて再度挑戦したいと考えています。太西さん、ご同行の皆様、ありがとうございました。